

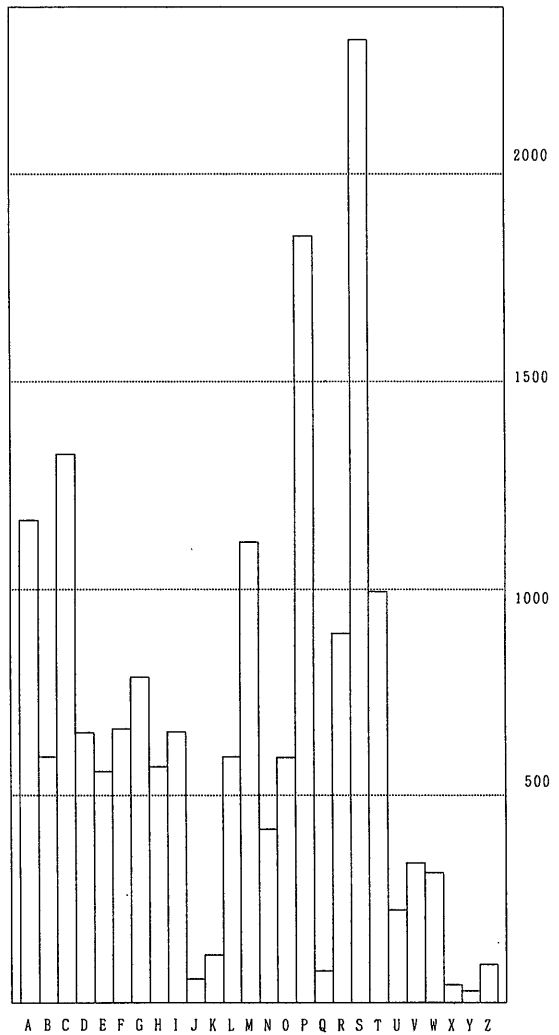
書 評

「地学英和用語辞典」

猪郷久義監修, 宮野 敬・宮野素美子編著
愛智出版, A5版, 351ページ,
定価5,600円(税抜き価格)

最近, 各専門分野の学会誌に掲載された論文の引用文献についてその年度分布などを調べたところ, ほとんどの分野で過半数が英文で書かれていた。8割以上が英文論文である分野さえあったのは驚きである。地質学分野でも英文論文は6割近くを占めている。また, 評者は, ここ5年ほど東アジアの国々の研究者と自然災害図プロジェクトの共同研究を実施している。痛切に感じたのは, 各国の母国語で記載された文献類から災害データベースを構築することが極めて困難なことである。少なくとも英語が併記されていないと手におえない。世界的にみても欧米のデータベースは充実しているが, それでも(旧植民地関係を除いて)アジア関係が極めて弱いことは否めない。また, インターネットがどのように発展しようとも, 英語が一種のグローバルスタンダードになりつつあることも事の是非は別として趨勢である。極論すれば, 我々の研究成果も英語で表現しなければ, 世界的な評価の対象になりにくくなっているのではないだろうか。しかしながら, 原因は色々あるにしても中学校から大学まで10年間, さらにそれ以上学んでいながら十二分に英語の能力が身につけていないことを嘆くのは評者のみであろうか。最近では, 翻訳支援プログラムも充実しつつあるが, やはり, まず自分で書いてみるのが必須であろう。その基本はまず正確な述語の使用から始まる。ここで紹介する本書は, 基本的に地質学分野における英和辞典である。約17,000語に及ぶ語数である, 試みに, 各アルファベットごとの項目分布を数えたのが第1表である。一般に英語はEで始まる単語が多いといわれているが, 地質学分野では必ずしもそうでないことは明らかである。特に意味のある分析ではないが, 読者

第1表 アルファベットごとの項目数分布。



の一興としていただければ幸いである。さて, 本書はまず使いこなすことが先決でこれ以上論ずることもないが, あえて欲を言えばこれに対応した和英版が望まれることである。なお, 同出版社からは, 「地学英語文例辞典」「地質学のための英語」(共に河内洋佑著)が既刊されている。併読すればさらに効果が高まることと期待される。

(環境地質部 加藤碩一)

書籍紹介

「横浜丘の手湧水マップ」

発行・製作：横浜北部湧き水探偵団，
A1判(表裏)，300円+郵送料，
発行日：1998年3月，
問い合わせ先：事務局 松木房子
(Tel/Fax. 045-901-1939)

都市化が進む神奈川県横浜市北部(青葉・緑・都筑・港北区)の市民グループが環境保全の第一歩として「湧水探し」を企画し、地質・地形・湧水の調査を実施した結果をまとめたものである。A1版で表面はカラーで国土地理院発行の地図と地質調査所の地質図が一部複製引用され、調査地の位置とそれらを結ぶ5つの見学コースが記載されている。各地点での水量・pH・NO₃・電気伝導度なども示され、裏面には2色刷りで、湧き水や地下水

に関する平易な説明が図や写真で記されている。タイトルだけあげると、水循環、湧き水の利用、地下水を汚さないためには、大気汚染と地下水、地下水を豊富にするには、湧水とは、湧水を捜してみよう、横浜市北部地域での湧水の湧出機構などである。さらに、特筆すべきは地質と地形について地質調査所OBの岡重文さんがわかりやすく解説していることである。岡さんは、退職後もライフワークの南関東の第四紀の研究を地元の市民・関係者らと協力して進められている。こんどの湧水マップへの関与もその一環でもある。地質調査所の研究成果を一般社会に還元する努力の重要性が認識されつつある昨今、このマップはその好例である。また、幾つもの新聞でも紹介され、マップ及び地質調査所が市民の目に触れる切っかけともなり高く評価されるべきであろう。

(環境地質部 加藤碩一)

書評

「年代測定概論」

兼岡一郎著，東京大学出版会，A5判
315ページ，4,000円(税抜き価格)

地質学に、年代測定が本格的に導入され、地球の年齢が45億年であることがわかってから、まだ50年たらずである。しかし、最近の年代測定の進歩はめざましい。鉱物のマイクロオーダーの微小領域の年代測定が可能になり、太陽系初期の1,000万年に起きた事象を数十万年の精度で測定できるようになってきた。このような進歩の中で、本書は、待望されていた地球の年代学の入門書である。20年前に岩波講座の地球年代学が発行されて以来久々のことだ。本書は、この20年に発展した各種の年代測定法の原理や測定法を含んでいるだけではない。既に広く地質学に應用されている年代測定法についても、年代値の評価の方法や、年代測定の対象に応じた測定法が、具体的な例をあげて、わかりやすく書かれている。地質学の初心者のみならず、広く地質学の研究者にすすめたい。

特に、年代を用いた議論を多少なりとも行う地

質学の研究者には、第6章の“年代値の評価”はぜひ読んでいただきたい。年代値は、しばしば、誤って使われる。その原因は、それぞれの年代測定法的前提や誤差を無視したためである。本書は、そのための章を設けており、画期的なことである。この視点は、それぞれ年代測定法の項にも貫かれており、実例をあげて説明している。たとえば、偽アイソクロンというものをご存じだろうか。本書では、年代値を正当に使うために必要なことは何かということが指摘されている。

実例が豊富であるだけでなく、本書の随所に囲み記事があり、さまざまなトピックをとりあげており、ともすれば説明的になりがちな教科書に、深みを与えている。もちろん、それぞれの年代測定に関わっている者からすれば、もう少しついでに書いてほしかったと言うことはあるだろう。しかし、著者が述べている様に、本書はあくまで入門書であり、年代測定値を使って論文を書く者は、この本をベースにさらに専門書や、論文を読むべきであることはいうまでもない。

(地殻化学部 富樫茂子)